

経営比較分析表（令和6年度決算）

千葉県 柏市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	78.22	90.74	79.18	2,357

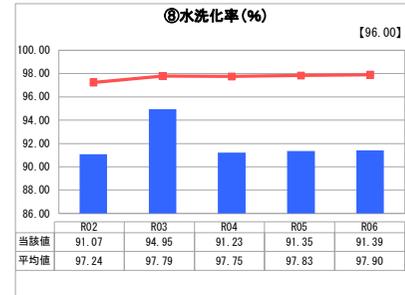
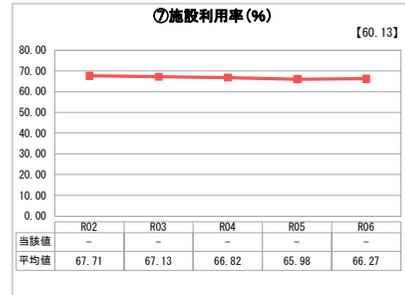
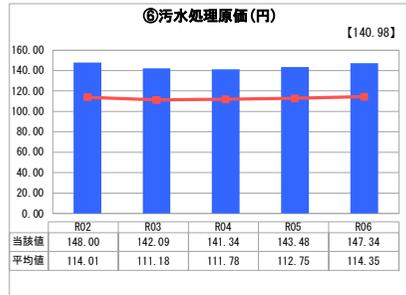
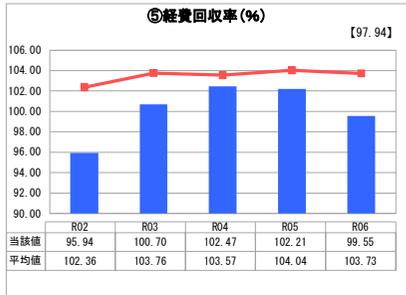
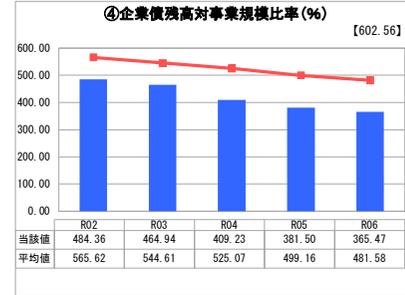
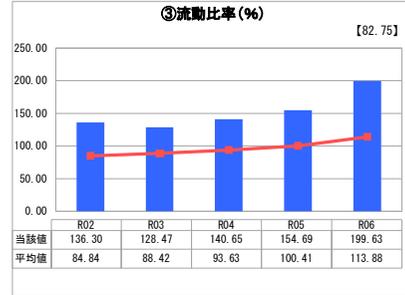
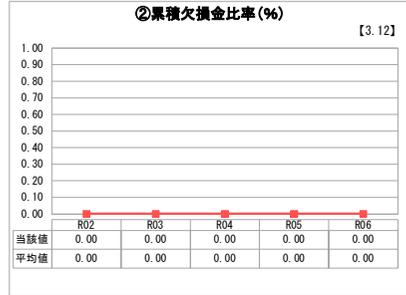
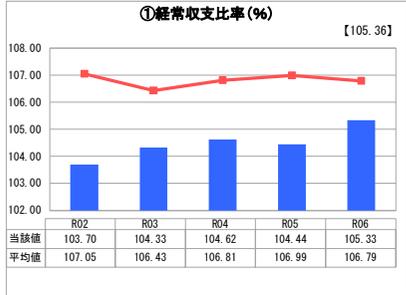
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
437,634	114.74	3,814.14
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
397,180	47.14	8,425.54

グラフ凡例

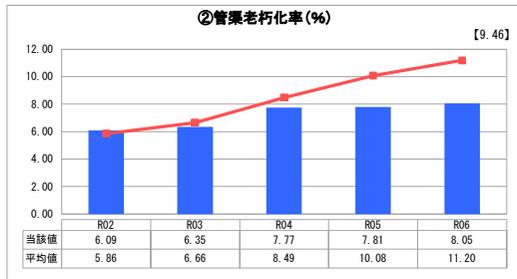
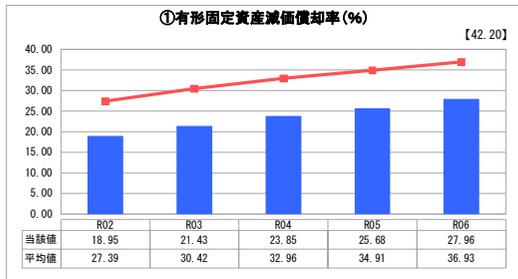
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、単年度の収支が黒字であることを示す100%を継続的に維持しています。

なお、利用者数の増加に伴う使用料収入、企業債残高の減少に伴う支払利息の縮減に起因するところが多い反面、減価償却費と汚水処理費が大きいことから、利益は低水準となっています。

汚水処理費に関しては、柏市は汚水処理に必要な独自の施設を保有していないことから、全ての汚水を千葉県が設置する終末処理場で浄化するための費用として支出しています。

浄化に要する汚水処理費については、流域下水道維持管理費負担金や減価償却費が増加傾向にあり、下水道事業経営に大きな影響を及ぼす要因のひとつとなっています。

流動比率については、大規模な建設事業の完成に伴う支払の多寡により年度間での変動はありますが、支払能力の有無の判断基準である100%以上を維持しています。

今後の下水道事業経営については、経費の増加への対応や必要な設備投資のための利益の確保を維持することを念頭に、現行の使用料形態をいつまで維持できるかの持続的な検証と検討が必要となります。

2. 老朽化の状況について

老朽化対策については、下水道施設の計画的かつ効率的な管理手段であるストックマネジメントにより、緊急度等に応じた優先順位付けを行っています。

その他の対策としては、管路の効率的な予防保全型維持管理を目的とした包括的民間委託により、職員数を抑制しながら更生工法による改築更新業務を実施しています。

今後も管路等の老朽化が進むため、ストックマネジメントに基づき包括委託などの効率的な手法をより有効に機能させていくよう努めます。

全体総括

現在の経営の健全性は、概ね良好な状態を維持しています。

しかしながら、後は老朽化の進行による改築費用の増加や、電気料金をはじめとする物価高騰による流域下水道維持管理費の増加が見込まれています。

引き続き、経営戦略に基づく適切な事業運営に努め、健全経営の持続を目指していきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。